

2．流域及び河川の自然環境

2 - 1 自然環境

(1) 流域の自然環境

自然環境の概要

櫛田川中・上流域の一帯は^{かはだきょう}香肌峡県立自然公園及び^{むろうあかめあおやま}室生赤目青山国定公園に指定されている。

上流域は1,000m級の山々が連なる山間地域で^{はちす}蓮溪谷をはじめとする数々の溪谷・景勝地がある。植生としては、スギ、ヒノキの人工林の間に、^{おおだ}青田溪谷（^{おおだ}青田川）・^{おおだ}蓮溪谷一帯をはじめブナの原生林が残存し、モミ、シデなどの樹林が残存するほか、トガサワラ、イワギリソウ等の植物も生育し、特にトガサワラは、本州の北限分布地となっている。このような樹林地帯には、樹林の環境に依存するモリアオガエル、ホンダザル、ニホンカモシカなどの動物が生息している。

中流域の沿川にはスギ、ヒノキの人工林やシイ、カシ^{ほうがりん}萌芽林などの樹林が連続し、林内にはハコネサンショウウオ、ギフチョウ、オオムラサキなどが生息している。また、沿岸では、櫛田川本川中流域の^{あいしふどういん}大石不動院にあるほうろく岩に群生するムカデランの群落が国指定天然記念物となっている。

下流域には、^{まつさか}松阪市の市街地や田園地帯が広がり、丘陵の麓にはアカマツ林、海岸部にはクロマツ林が広がっており、上流域の溪谷美と合わせて、櫛田川の豊かな自然を特徴づけるものとなっている。

櫛田川は、アユの季節になると水面が鮎の色に染まると言われるほど自然豊かな河川であり、香肌峡の名に示すように櫛田川及びその沿川には、鮎、茶、椎茸といった香り高い産物が多く、とりわけ天然鮎の踊る清流として名高い。



^{おくかはだきょう}
奥香肌峡

室生赤目青山国定公園の櫛田川上流と支川の蓮川一帯に広がる溪谷であり、春は新緑、秋は紅葉が美しい。

【出典：飯高町まると発信ガイド】



田園風景（^{めいわ}明和町）

櫛田川下流はのどかな田園風景が広がっている。

【出典：明和町勢要覧】

櫛田川流域にすむ生物

櫛田川は、直轄管理区間中・下流部でワンド状の止水的環境から、湿地、水辺、砂州、塩沼地、休耕地や耕作地、さらにスギ人工林等の樹林まで様々な環境が見られる。また、直轄管理区間の上流部は多くが無堤区間であり、河岸には帯状に樹林が分布し、樹林性の植物種が多く生育している。

特に河川環境を代表する水辺・湿地環境には、ヨシ、ヒメガマ、マコモ、ツルヨシ、ウキヤガラ等や、ジャヤナギ、タチヤナギ、カワラハンノキ等の河辺林の構成種、オオカナダモ、ヒシの沈水、浮水植物が生育している。

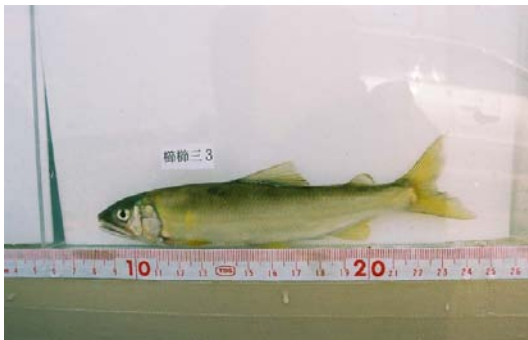
また、河口の塩沼地や海浜環境にはアイアシ、フクド、ハマボウ等のその立地特有の植物種が生育し、河川に特有の多様な植物相を形成している。

櫛田川流域にすむ魚類には、アユ、アマゴ、オイカワ、タカハヤ、カワムツ類、ヨシノボリ類、アブラハヤ、ネコギギなどがある。

上流域には、アマゴやタカハヤといった渓流を代表する魚類や、カワムツ類、ヨシノボリ類が多く見られ、中下流域にはアユやオイカワ、ヨシノボリ類、アブラハヤ等が多く見られる。また、下流域にはアユの産卵場も見られる。

ひがしくべとろしゅこ
東黒部頭首工より下流は感潮区間であり、ボラやハゼ類が確認されている。

ネコギギはきれいな流水にしか生息しない魚種で国指定の天然記念物に指定されており、櫛田川では中流域の上流を中心に生息が確認されている。



アユ

櫛田川はアユの産地として名高く、本川のほぼ全域で確認され、初夏のシーズンには県外からも多くの釣り客が集まる。

淡水で生まれてすぐに海へ下り、産卵とは無関係に再び淡水に戻る。成魚の生活場は、多くが平瀬～早瀬である。



ネコギギ

伊勢湾と三河湾に流入する河川のみ生息する日本固有種である。きれいな流水を好むことに加え、岸辺の入り組んだ場所に生息する。

生物学的にも大変貴重な種であり、櫛田川の優れた自然を再確認し、それを保全するためのシンボルとも言える。

【提供：清水義孝氏】

櫛田川流域にすむ底生動物は、頭首工の湛水区間が連続する下流域では流れの緩やかな環境や止水に生息するカゲロウ目、トンボ目が多く見られる。また、河口部付近では、

ウミニナ、ゴカイ、イソコツブムシ近似種等の汽水性種が多く見られる。

櫛田川流域にすむ鳥類は、櫛田川の多様な自然環境を反映し、キジバト、ヒヨドリ等林地性の種やコサギ、アオサギ、チュウサギ等のサギ類やカワウといった水辺に依存する種、河川上流に生息するヤマセミ等が見られる。

櫛田川にすむほ乳類は、コウベモグラ、アカネズミ、タヌキ等があり、中下流域でキツネが確認されている。は虫類は、樹林性のアオダイショウやヤマカガシ、草地性のカナヘビ、水に生息するイシガメ等がいる。両生類は、水際の草地や湿地はカエル類の生息環境として重要な存在となっているほか、上流域では三重県指定の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオが生息している。また、中流域では国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが確認されている。



チュウサギ

「環境庁レッドリスト」で準絶滅危惧(NT)として記載されている特定種で、近年個体数が減少しつつある。



オオサンショウウオ

国の天然記念物であり、岐阜県以西の本州及び大分県に分布する。山地の溪流に住み、生涯のほとんどを水中で過ごす。【提供：清水善吉氏】

櫛田川流域にすむ昆虫類は、ヨシ、セイタカアワダチソウ、ヤナギなどの高水敷の植生状況を反映して、セクロウリハムシ、ヒメカメノコテントウ等のコウチュウ目、ショウリョウバッタ、ツツレサセコオロギ等のバッタ目等草地を主たる生息域とする昆虫類が多く見られる。

また、水辺を好むアジイトトンボ、コシマゲンゴロウ、ヒメガムシ等の種も見られる。

樹林地は、単純な草地と異なり様々な植物が生育し、昆虫やクモを含めた動物に餌やすみかを提供しており、クマゼミ、クロコノマチョウ等樹林性の種の出現が多く見られる。

櫛田川における重要な種

既応の河川水辺の国勢調査により確認された種、または文献による記載が確認されている重要な種は、以下に示す特定種一覧表のとおりである。特定種は、植物31種、魚類13種、鳥類15種、両生類2種、底生動物8種、陸上昆虫類8種である。

● 櫛田川で確認された植物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
ヤシャゼンマイ	自然	櫛田川下流部
ミズワラビ	三重レ（危惧） 近畿レ	櫛田川下流部
オオバノハチジョウシダ	自然	櫛田川下流部
カワラハンノキ	三重レ（希少）	櫛田川河口部～下流部、 ^{はら} 菟川
カワラナデシコ	三重レ（希少）	櫛田川河口部
ハママツナ	近畿レ	櫛田川河口部、菟川
コウホネ	三重レ（希少）	菟川
ヤナギイノコズチ	近畿レ	櫛田川下流部
オガタモノキ	三重レ（希少）	櫛田川下流部
ミヤコアオイ	危急	櫛田川下流部
ヒメカンアオイ	危急	櫛田川下流部
イチモチソウ	危急、三重レ（危惧） 近畿レ	櫛田川下流部
タコノアシ	危急、三重レ（危惧） 近畿レ	櫛田川下流部
ユキヤナギ	近畿レ	櫛田川下流部
カワラサイコ	三重レ（希少）	櫛田川下流部
ハマボウ	三重レ（希少） 近畿レ	櫛田川河口部
ヒメミソハギ	近畿レ	櫛田川下流部
ケヤマウコギ	近畿レ	櫛田川下流部
カラタチバナ	三重レ（希少）	櫛田川下流部
ハマザジ	三重レ（希少）	櫛田川河口部、菟川
ミゾコウジュ	NT、危急、三重レ（希少） 近畿レ	櫛田川河口部～下流部、 ^{さな} 佐奈川
カワデシャ	NT	櫛田川下流部、佐奈川
カワラハハコ	近畿レ	櫛田川下流部
カワラヨモギ	三重レ（希少）	櫛田川河口部
フクド	三重レ（希少） 近畿レ	櫛田川河口部、菟川
ウラギク	VU、三重レ（希少）	櫛田川河口部～下流部、菟川
シライトソウ	三重レ（希少）	櫛田川下流部
アイアシ	近畿レ	櫛田川河口部、菟川
ナガミノオニシバ	近畿レ	櫛田川河口部
ミクリ	NT、三重レ（危惧） 近畿レ	櫛田川下流部
シオクゲ	近畿レ	櫛田川河口部、菟川

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

VU：レッドリスト絶滅危惧 類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

危急：「我が国における保護上重要な植物種の現状」における危急種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

近畿レ：「近畿地方の保護上重要な植物—レッドデータブック近畿」記載種

出典：平成 7年度 河川水辺の国勢調査 櫛田川水系植物調査報告書

平成11年度 河川水辺の国勢調査 櫛田川水系植物調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(菟川)報告書

● 榊田川で確認された魚類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
スナヤツメ	VU	榊田川下流部～上流部
アブラボテ	三重レ（希少）	榊田川下流部、祓川
シロヒレタビラ	三重レ（危惧）	祓川
イチモンジタナゴ	EN、三重レ（危惧）	榊田川下流部～上流部、佐奈川
ズナガニゴイ	三重レ（希少）	榊田川下流部～上流部
スジシマドジョウ小型種 東海型	EN	佐奈川
ネコギギ	国指、EN、国レ（危惧）、自然、重要	榊田川下流部～上流部
ギバチ	VU	榊田川中流部
アカザ	VU	榊田川下流部～上流部、蓮川
メダカ	VU	榊田川下流部～中流部、佐奈川
カマキリ	三重レ（希少）、重要	榊田川下流部
ウツセミカジカ	VU	榊田川下流部～上流部
ニクハゼ	EN	榊田川河口部

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国指：国指定天然記念物

EN：レッドリスト絶滅危惧 B類種

VU：レッドリスト絶滅危惧 類種

国レ（危惧）：レッドデータブック絶滅危惧種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

重要：「日本の重要な淡水魚類」対象種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成 8年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系魚介類調査報告書

平成13年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系魚介類調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(祓川)報告書

● 榊田川で確認された鳥類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
カンムリカイツブリ	稀少、国レ（危急）	榊田川下流部
カワウ	自然	榊田川河口部～下流部、祓川
チュウサギ	NT、国レ（希少）、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部
ミサゴ	NT、国レ（危急）、稀少、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、祓川
オオタカ	VU、国レ（危急）、稀少、保存、三重レ（危惧）	榊田川下流部、祓川
チュウヒ	VU、国レ（危惧）、稀少、三重レ（危惧）	榊田川下流部、祓川
ハヤブサ	VU、稀少、保存、三重レ（危惧）	祓川
チョウゲンボウ	稀少	祓川
タマガシ	三重レ（希少）	佐奈川
シロチドリ	三重レ（希少）	榊田川河口部、祓川
タゲリ	稀少	榊田川下流部
コアザシ	VU、国レ（希少）、自然、三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部
ヤマセミ	自然、三重レ（希少）	榊田川下流部、佐奈川
カワセミ	自然	榊田川河口部～下流部、佐奈川、祓川
オオヨシキリ	三重レ（希少）	榊田川河口部～下流部、祓川

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国指：国指定天然記念物

VU：レッドリスト絶滅危惧 類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

自然：「緑の国勢調査」における「すぐれた自然の調査」対象種

保存：「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物の指定種

稀少：「第2回緑の国勢調査」における「稀少種」

国レ（危急）：レッドデータブック危急種

国レ（希少）：レッドデータブック希少種

三重レ（希少）：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ（危惧）：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成 5・6年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系鳥類調査報告書
 平成10年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系鳥類調査報告書
 平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(被川)報告書

● 榊田川で確認された両生類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
オオサンショウウオ	国天、NT、国レ(希少)、重要	榊田川下流部
ダルマガエル	VU、重要	榊田川下流部

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

国天：国指定天然記念物

国レ(希少)：レッドデータブック希少種

VU：レッドリスト絶滅危惧 類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

三重レ(希少)：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

重要：「日本の重要な両生類」対象種

出典：平成 4年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

平成 9年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系両生類・爬虫類・哺乳類調査報告書

● 榊田川で確認された底生動物の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
マルタニシ	NT	佐奈川
モノアラガイ	NT	榊田川下流部、佐奈川
マツカサガイ	NT	佐奈川
ヒメサナエ	三重レ(希少)	榊田川下流部
キイロヤマトンボ	VU、三重レ(希少)	榊田川下流部、佐奈川
コフキトンボ	三重レ(希少)	榊田川下流部
ヨコミゾドロムシ	CR+EN	榊田川下流部
コオイムシ	NT	被川

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

CR+EN：レッドリスト絶滅危惧 類種

VU：レッドリスト絶滅危惧 類種

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

三重レ(希少)：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

出典：平成 8年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系底生動物調査報告書

平成13年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系底生動物調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(被川)報告書

● 榊田川で確認された陸上昆虫類の特定種一覧表

種名	指定区分	確認場所
コフキトンボ	三重レ(希少)	佐奈川
ツチゴキブリ	重要	榊田川下流部、佐奈川
アオマツムシ	重要	榊田川下流部、佐奈川
ヒメジュウジナガカメムシ	重要	榊田川河口部～下流部
ゲンジボタル	重要	榊田川下流部、佐奈川
ニッポンハナダカバチ	DD	榊田川河口部
オオサカサナエ	三重レ(危惧)	被川
クロアシエダトビケラ	NT	榊田川下流部

特定種の指定区分は、以下のとおりである。

NT：レッドリスト準絶滅危惧種

DD：レッドリスト現状不明種

重要：「日本の重要な昆虫類」対象種

三重レ(希少)：「自然のレッドデータブック・三重」における希少種

三重レ(危惧)：「自然のレッドデータブック・三重」における危惧種

出典：平成7・8年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系陸上昆虫類調査報告書

平成12年度 河川水辺の国勢調査 榊田川水系陸上昆虫類調査報告書

平成12年度 二級河川金剛川他10水系22河川河川管理基本計画策定業務委託(被川)報告書

(2) 河川の自然環境

上流部の自然環境

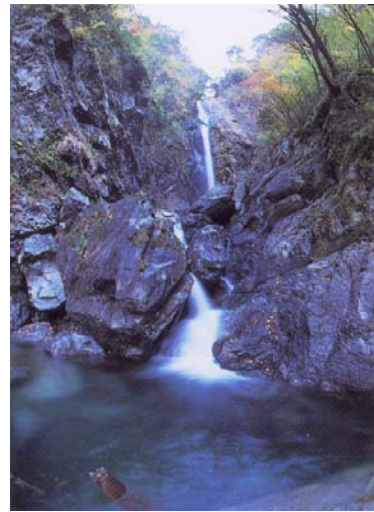
櫛田川の上流部の青田溪谷（青田川）、蓮溪谷一帯には、ブナの原生林が残存するほか、トガサワラの本州の北限分布地となっている。さらに、高滝^{たかたき}などの点在する滝が変化に富む溪谷美を形成しており、このような水辺等には三重県指定の天然記念物であるオオダイガハラサンショウウオをはじめ、アマゴ、タカハヤ、ゲンジボタルなど、山間の清流にすむ生物の生息がみられる。



きかじ
木梶三滝

最上流部に位置する木梶川には、上流から白滝^{しらたき}、女滝^{めだき}、不動滝^{ふどうだき}と3つの滝が存在し、木梶三滝と呼ばれ、その荘厳な瀑布は訪れる人に感動を与えてくれる。

【出典：飯高^{いいたか}町まると発信ガイド】



みやのたに
宮の谷高滝

宮の谷は、高滝^{たかたき}や風折^{かざおれ}の滝と急峻な崖があり、また原生林も残っており、溪谷美だけでなく、自然観察の場としても利用される。
【出典：蓮ダムパンフレット】

中流部の自然環境

中流部は大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出し、砂州や瀬、淵が連続し^{つづらくま}九十九曲の流れ、恵比寿河原^{えびすがわら}、大石^{おおいし}といった景勝地を構成しており、これらは合わせて香肌峡とよばれ県立自然公園に指定されている。また、沿川にはスギ、ヒノキの人工林やシイ、カシ萌芽林などの樹林が連続し、水辺には清流櫛田川を代表するアユや、国指定の天然記念物であるネコギギなどの魚類をはじめ、ヤマセミ、エナガ、ヤマガラなどの鳥類が生息する。また、国指定の特別天然記念物であるオオサンショウウオが確認されている。

恵比寿河原

香肌峡に属する恵比寿河原は良好な瀬淵が存在しアユの釣り場としても人気のスポットとなっている。





大石付近

中流部の大石付近は、香肌峡に属し、岩盤が露出して様々な景観美を生み出している。【出典：松阪市勢要覧】

下流部の自然環境

下流部は伊勢平野の南端を流れ、法田^{ほうだ}付近で被^{はらい}川と分派する。本川の河岸には竹類、エノキ、ジャヤナギ、カワラハンノキなどの河畔林が分布し、チュウサギやカワウなどが集団営巣地として利用している。

両郡^{りょうぐん}橋付近及び東黒部頭首工の下流河道内では、アユの産卵場が見られる。

両郡橋から下流では、頭首工の湛水区域が連続し流れの緩やかな区間が連続することなどから、ヨシ、ヒメガマ、マコモなどの水生植物が繁茂し、止水環境を好むトンボ類等の水生昆虫が生息している。また、ヨシ原に依存するオオヨシキリの営巣や、湛水面を利用するカモ類の休息の姿を見ることができる。



両郡橋下流のアユの産卵場所



サギのコロニー（6.2 km付近）

第二頭首工上流左岸には、スギ、エノキ、モウソウチク等からなる発達した河畔林があり、サギ類の集団営巣地となっている。



カワラハンノキ

自然のレッドデータブック・三重における希少種。川岸の礫地に生息する。



オオヨシキリの繁殖地

下流部のヨシ原は、オオヨシキリの繁殖地となっている。【提供(オオヨシキリ)：市川雄二氏】

河口部の自然環境

東黒部頭首工より下流は感潮区域であり、チチブ、ボラなどの汽水魚、海水魚が生息している。河口に広がる干潟はアイアシ、フクド、ハマボウなどの海浜性植物や、ゴカイなど汽水性の底生動物が多く生息するほか、シギ、チドリ類などの集団分布地となっているほか、コアジサシの繁殖地も見られる。



河口部干潟

塩性湿地が豊富で、ハマボウ等重要な生物の生息も確認されている。



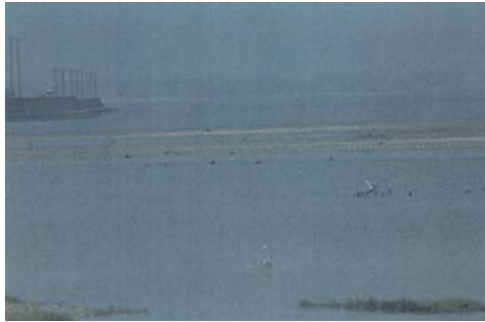
ハマボウ

神奈川県を分布の東限とする暖地性の植物で、三重県では熊野灘沿岸地方に主として分布し、伊勢湾沿岸地域では稀な植物群落となっており、保全に配慮が望まれる。(写真は0.2 km付近右岸の様子)



カワラヨモギ

自然のレッドデータブック・三重における希少種。海岸や河川敷の砂地や礫地に生息する。



シギ、チドリ類の集団休息地

河口部の干潟は、シギ、チドリ類の集団休息地として重要な役割を果たしている。



コアジサシ



シロチドリ

【提供：市川雄二氏】

祓川の自然環境

かつては本川であったと伝えられる祓川は田園地帯を流れる自然豊かな小河川であり、蛇行に沿って生えるケヤキなどの河畔林やヨシなどの抽水植物が水辺の豊かな自然を育み、シロヒレタビラやアブラボテなどのタナゴ類が生息する。



祓川の河畔林



シロヒレタビラ

祓川にすむタナゴ類。自然のレッドデータブック・三重における希少種

【提供：清水義孝氏】



アブラボテ

祓川にすむタナゴ類。自然のレッドデータブック・三重における希少種

【提供：清水義孝氏】

佐奈川の自然環境

支川佐奈川にもタマシギ、クイナなど湿地に生息する鳥類がみられる。

● 区間別の主な環境要素と河川環境を特徴づける種及び集団分布地、繁殖地等

区間	主な環境の構成要素	櫛田川の河川環境を特徴づける種	集団分布地、繁殖地（産卵場）ねぐら
感潮区間 (0～3.6km付近)	○水域 ・汽水域 ○陸域 ・干潟、塩沼植物群落、ヨシ原	魚類：チチブ、ピリンゴ、ボラ、ウグイ、カマキリ* 植物：ハマボウ*、アイアシ*、フクド*、ヨシ 鳥類：シロチドリ*、コアジサシ*、オオヨシキリ*	魚類：アユの産卵場 鳥類：シギ、チドリ、カモメ類の集団休息地、コアジサシの繁殖地、カモ類の集団休息地、オオヨシキリの繁殖地
下流区間	○水域 ・瀬、湛水域 ○陸域 ・河畔林、砂州	魚類：アユ、ウグイ、オイカワ、アブラハヤ、アカザ*、カワヨシノボリ 植物：ツルヨシ、エノキ、ムクノキ、スギ、ヒノキ、マダケ 鳥類：カワウ*、チュウサギ*、ホオジロ、カワセミ*、ヤマセミ*、カイツブリ、コガモ、カワラヒワ、セグロセキレイ 両爬哺：アマガエル、カナヘビ、カヤネズミ	魚類：アユの産卵場 鳥類：ツグミのねぐら、タゲリの休息地、カモ類の集団休息地、カワウ、サギ類の集団分布地、スズメのねぐら
中流区間	○水域 ・瀬淵、岩盤、蛇行 ○陸域 ・砂州、清流	魚類：アユ、カワヨシノボリ 鳥類：ヤマセミ*、エナガ、ヤマガラ 両爬哺：オオサンショウウオ*	
上流区間 (蓮川含む)	○水域 ・溪流、瀬淵、清流 ○陸域 ・	魚類：アマゴ、タカハヤ 両爬哺：オオダイガハラサンショウウオ* 陸昆：ゲンジボタル*	
佐奈川	○水域 ・緩流域 ○陸域 ・湿地	魚類：メダカ*、ギンブナ、イチモンジタナゴ 植物：ツルヨシ、マコモ、ウキヤガラ 鳥類：カルガモ、タマシギ*、ムクドリ	
祓川	○水域 ・蛇行 ○陸域 ・河畔林、ヨシ原	魚類：ウグイ、シロヒレタビラ*、アブラボテ* 植物：ケヤキ、ヨシ、コウホネ*	

*：特定種

榑田川を特徴づける場所

このような榑田川の環境を特徴づける場所として、地域の有識者からなる「榑田川環境特性懇談会」(平成9～10年開催)において、以下の24箇所が抽出されている。

表2 - 1 榑田川を特徴づける環境

らしさのキーワード	位置	内容
河口に広がる砂丘と干潟	河口、松名瀬海岸(0k付近)	鳥類の休息地やハマボウ群落の生息等、生物の生息場として貴重な環境を有している。
スズメ、ムクドリの集団ねぐら	魚見橋上流右岸(4.4～5.0k付近)	サ、I、サ等河畔林が、鳥類の休息場となっている。
サギのコロニー	榑田川第二頭首工上流左岸(6.2k付近)	I、サ、マダ等河畔林が、サギ類の集団営巣地となっている。
夏の川遊び	榑田橋上下流(7.5～8.0k付近)	広い川原は、夏場を中心に水遊びをする家族連れでにぎわいを見せる。
神山神社の遷宮	榑田可動堰下流(10.0k)	河原の丸い白石は神山神社の伝統行事と深い関わりを持っている。
神山付近の気品漂う風景	松阪市法田町(10.5～11.5k付近)	榑田可動堰の広い湛水面と神山の山並み、河畔林が調和した気品漂う風景を形成している。
歴史を感じる両郡橋周辺の風情	両郡橋付近(14.2k付近)	往事の繁栄の名残を残す古い町並みと榑田川の清流が調和した独特の風情を醸し出している。
庄町付近のゆるやかな流れ	松阪市庄町付近(16～17k付近)	川の中に点在する白い岩と透明感のある緩やかな流れ、砂礫の川原が榑田川を代表する景観を呈している。
昔ながらの風景	津留橋付近(22k付近)	手つかずの自然が残されており、津留の渡し跡として賑わった当時の雰囲気が偲ばれる。
オートキャンプ場	勢和大橋下流河川敷公園(29～30k付近)	広い川原が開け、行楽シーズンになるとオートキャンプ等を楽しむ人々ににぎわいを見せる。
恵比寿河原と奇岩・奇石	松阪市大石町～飯南町立梅付近(32～41k付近)	香肌峡の入り口に位置し、河床の岩盤が奇岩、奇石となって見事な河川景観を見せている。
川・サイド茶倉と立梅用水	飯南町粥見付近(41k付近)	榑田川に触れ合う場を提供するほか、榑田川の水の大切さを伝承する場となっている。
清流を印象づける流れ	相津川合流点～桜橋付近(44k付近)	榑田川の流れが周辺の山並み、水辺の林、白い砂州と調和し、清流榑田川を特徴づける風景を見せている。
川俣太郎とアユ釣り	飯南町粥見～赤桶(41～56k付近)	荒瀬、岩盤、大淵、大岩が連なり、「川俣太郎」と呼ばれるアユが育つ区間である。
栃川合流点付近の風景	栃川橋付近(48～49k)	瀬淵の連続したさまと沈み橋が調和し、榑田川を特徴づける風景を呈している。
水屋神社と礫石	赤桶橋付近(56k付近)	水屋神社付近の榑田川は、国分け伝説にまつわる礫石があり、神秘的な雰囲気を与えている。
田引の一本松	田引堰堤付近(60k付近)	和歌山街道の名残を残す松の大木が水面に姿を映し、独特の風景を形成している。
九十九曲のキャンプ場	飯高町栗野付近(65～66k付近)	榑田川で最も曲がりくねった区間であり、シーズンには多くの人が溪流、峡谷の自然を楽しんでいる。
自然の学校	飯高町内(49～83k付近)	飯高町内を流れる榑田川は、自然の営みを教材として子供たちに川の大切さを伝える重要な役割を果たしている。

	らしさのキーワード	位 置	内 容
	はげ 波瀬本陣跡と櫛田川	飯高町波瀬西切(82.5k付近)	古くから宿場町として栄え、川沿いの桜と古い家並みが櫛田川の流れと調和した風景を形成している。
②①	溪流のリゾート地	飯高町波瀬野口(83k付近)	水と緑に親しむ溪流のリゾート地となっているほか、地域によって波瀬ユリが大切に育てられている。
②②	地域を守り、生活を支える蓮ダム	蓮ダム周辺	周辺環境整備や水質の保全対策により、自然と調和を目指したダムづくりが進められている。
②③	蓮渓谷・宮の谷	蓮ダム上流	多くの滝と急峻な崖が渓谷を特徴づける景観を形成している。
②④	楔ぎの川袂川	袂川	斎宮の楔ぎの場として利用された名残を残し、歴史を感じさせる場となっている。



河口に広がる砂丘と干潟



スズメムクドリ^のの集団ねぐら



サギのコロニー



夏の川遊び



神山神社の遷宮



神山付近の気品漂う風景



歴史を感じる両郡橋周辺の風情



庄町付近のゆるやかな流れ



昔ながらの風景



オートキャンプ場



恵比寿河原と奇岩・奇石



リバーサイド茶倉と立梅用水



清流を印象づける流れ



川俣太郎とアユ釣り



栃川合流点付近の風景



水屋神社と礫石



田引の一本松



九十九曲のキャンプ場



自然の学校



波瀬本陣跡と櫛田川



㊹溪流のリゾート地



㊹地域を守り、生活を支える蓮ダム



㊹蓮溪谷・宮の谷



㊹楔ぎの川菰川



図2 - 1 橿田川らしさの場所

2 - 2 特徴的な河川景観や文化財等

榑田川本川の中～上流部では、室生赤目青山国定公園及び香肌峡県立自然公園に指定されており、優れた自然環境が数多く残されている。

また、榑田川本川中流域を榑田川に沿って走る国道166号は、伊勢と大和、紀伊を結んだかつての街道であり、この街道は紀伊半島の最広部をほぼ東西に横断し、三重・奈良・和歌山の三県を通過している。飯高町船戸から松阪市小片野町まではほぼ榑田川に沿った道筋で、飯南町横野では伊勢本街道と合流し、松阪市六呂木町まで重複する。特に両郡橋付近では松阪商人の発祥の地である射和商人の古い街並みが残り、榑田川の清流と調和した独特の風情をかもしだしている。

このようなことから、流域内には多くの文化財が存在し、このうち史跡、名勝、天然記念物は10件（内、国指定4件、県指定6件）が存在する（平成14年現在）。

表2 - 2 榑田川流域の史跡、名勝、天然記念物指定一覧

番号	名 称	指定区分	指定年月日	所在地
	不動院ムカデラン群落	天然記念物（国）	1927.4.8	松阪市大石町
	水池土器製作遺跡	史跡（国）	1977.7.25	明和町明星
	斎宮跡	史跡（国）	1979.3.27	明和町斎宮・竹川
	斎宮のハナショウブ群落	天然記念物（国）	1936.12.16	明和町斎宮
	坂倉遺跡	史跡（県）	1975.3.27	多気町東池上
	法泉寺庭園	名勝（県）	1937.11.12	多気町相可
	西村広休宅跡のフウ樹	天然記念物（県）	1937.11.18	多気町相可
	粥見井尻遺跡	史跡（県）	2000.6.19	飯南町粥見
	水屋の大クス	天然記念物（県）	1967.2.10	飯高町赤桶宮東
	蓮のムシトリスミレ群落	天然記念物（県）	1993.3.8	飯高町大字蓮



斎宮跡全景

伊勢神宮の天照大神に仕える斎宮の住宅地である斎宮跡地が、被川の名と共に歴史を感じさせる場所である。

【出典：斎宮跡
パンフレット】



図2 - 2 橿田川流域の主な史跡・名勝・天然記念物

櫛田川流域の景観特性としては、上流部は、ブナやトガサワラの深い原生林の中に地形的特性を反映した数多くの滝や奇石が分布し、溪谷としての風景が特徴的である。^{はちす}蓮川上流一帯は^{おくかはだきよう}奥香肌峡の^{はちす}蓮溪谷と呼ばれ、^{みや たに}宮の谷、^{えま}江馬小屋谷、^{せんごくたいら}千石平、^{おく たいら}奥の平等の谷に別れ、多くの滝と急峻な崖が見事な景観を呈している。

中流部は、大小の屈曲を繰り返して河岸段丘の谷間を流れ、至る所で岩盤が露出するとともに砂州や瀬、淵が連続し、^{つづらくま}九十九曲の流れ、^{えびす が わら}恵比寿河原、^{おいし}大石といった景勝地を構成しており、これらは合わせて^{かはだきよう}香肌峡とよばれている。

下流部は^{いせ}伊勢平野の南端を流れ、沿川に広がる田園風景が櫛田川の景観を特徴付けている。また、頭首工による広い湛水面が連続的に存在し、ケヤキ、スギ、タケ等からなる樹林帯が発達していることから、広い水面と樹林帯の風景が特徴的となっている。

松阪港に隣接する河口部においては干潟が発達しており、春の潮干狩り、夏の海水浴、冬のノリそだは櫛田川河口の風物詩となっている。



江間小屋谷

蓮川上流に位置し、宮の谷溪谷と並んで美しい自然美を満喫できるハイキングコースが設置されている。

【出典：飯高の山ガイドマップ】



ノリそだ

伊勢湾ではノリの養殖が盛んであり、櫛田川河口でもノリそだのたつ光景が見られる。【出典：松阪市勢要覧】



潮干狩り

河口部の干潟では、春になると大勢の人々が訪れ、潮干狩りをする光景が見られる。

2 - 3 河川にまつわる歴史・文化

櫛田川は多雨地帯を流れる河川であり古来より幾多の大洪水に見舞われている。このため、櫛田川下流部沖積平野の河道は一定しなかったようである。この地域に人が住み始めたのは古墳の遺跡等より無土器文化末期の約1万年くらい前からではないかと推測されている。

櫛田川の名の由来は、皇女「倭姫命」が第11代垂仁天皇の命を受け、皇祖神「天照大神」の鎮座地を求めて諸国を巡行されていたとき、命が「竹田の国」と呼んでいた地で頭に飾していた櫛を落とされたので、その地に櫛田神社を定め、櫛田という地名もそこから起こったとされる。また、曲がっていることをクシ、クネと呼ぶことから名付けられたとも言われている。

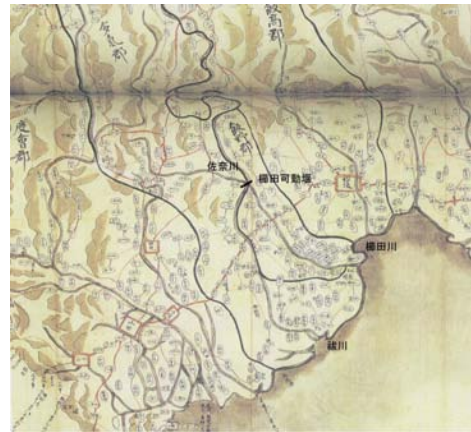
河道変遷の記録に残るものとしては、旧河道は現在の袂川が本流であったとされるが平安時代以降、本支流逆転が起こり現在の河道が形成されたとある。河道変遷については諸説あるが、永保2年(1082年)の地震や大洪水により、現在の櫛田可動堰付近より下流にあった水田や村落を押し流し現在の櫛田川が本川、袂川が派川となる河道が出来たと伝えられている。このため、神山麓の居住は困難となり川を渡って現在の法田地区に転住するに至った。

しかし、この部落も幾多の洪水により田畑が流出したため、水が何とかして去ってほしいとの念願から「水を去る田」の意味において法田町の名称をつけたとの説もある(法の字は「三水に去る」)。このように幾多の水害を受けたにも関わらず、この下流部平野一帯は美田が多いため沿岸住民の定着心は強く、住居の地上げ、輪中堤等により洪水防御を行ってきた。

流路が固定されたのは昭和初期であり、本格的に改修されるようになったのは昭和34年の伊勢湾台風以降である。

櫛田川は、奈良時代初期に採掘された丹生水銀や木材の水運・舟運などさまざまな利用が古来より行われ、両郡橋付近では松阪商人の発祥の地である射和商人の古い街並みが残り、櫛田川の清流と調和した独特の風情をかもしだしている。

櫛田川の歴史をしのばせるものとしては、袂川沿川の国指定史跡である斎宮跡、神山



河道変遷図

伊勢国大絵図(安永8年(1779))
【出典: 松阪地図集成】



神山から袂川、櫛田川を望む

(昭和28年頃)【提供: 大西春海氏】

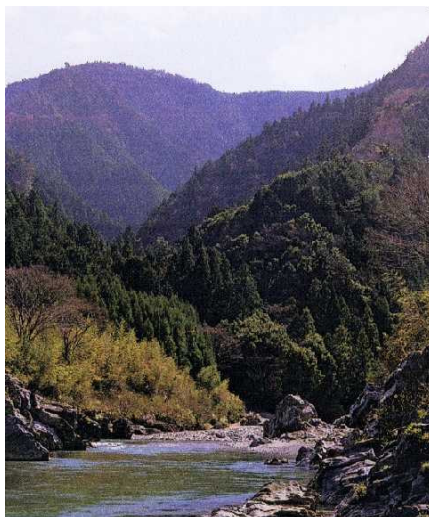
神宮の遷宮、文政6年（1823年）に築造された立梅用水、舟戸、津留、相可の渡し跡等があり、また、文化に関するものとしては、お庄ヶ淵、礫石、灯明岩等にまつわる伝説、あるいは清流太鼓が有名な香肌祭り等が挙げられる。

[特徴的な河川景観]

(1) 香肌峡

大台山系を源とする櫛田川の上流域一帯は、昔から茶、椎茸、山菜等香り高い物がとれることから香肌峡の名で親しまれ、現在は香肌峡県立自然公園に指定されている。国道166号に沿って約40km、急流・深淵の繰り返す渓谷美が続き、新緑・紅葉のほか、シヤクナゲ、サクラ、ツツジ等が岩肌を染め季節ごとに水面の色を変え、豊かな自然環境に彩りを添えている。

また、アユ釣りのポイントとしても知られ、「香魚」とも呼ばれる鮎のなめらかな肌は、香肌峡の名のもう一つの由来と言われている。



香肌峡県立自然公園

櫛田川の中上流一帯は、昔から香りの高い物がとれることから香肌峡の名で親しまれ、昭和28年に県立自然公園に登録された。

【出典：蓮ダムパンフレット】

(2) 大石不動院とムカデラン

大石不動院の境内から櫛田川の清流を望み、不動の滝がかかる景勝の地である。

ほうろく岩と呼ばれる巨岩に群生するムカデランは、国指定の天然記念物に指定されている。



ムカデラン

ムカデランは一属一種であり、日本特有の着生蘭である。8月頃より小さなピンクがかった花をつけ、実は卵円形で微細である。

[櫛田川にまつわる歴史・文化]

(1) 丹生水銀

日本最古の水銀採掘地である。このことは平安時代の逸話を集めた「今昔物語」^{こんじやく}第十七巻に水銀採掘悲話として「伊勢国飯高郡の水銀抗夫の話」^{いいたか}が出ていることからわかる。発見されたのは奈良時代初期で、当時は日本産水銀のほとんどがここで採掘され、すべて朝廷に献上されていた。

古代、中世には金属の渡金用、絵具の顔料、梅毒の薬として大重宝された水銀は、国内流通だけでなく、貿易品として朝鮮、中国にも触手を伸ばした。

丹生水銀によって、流域筋の道路、舟運、商工業、文化が開けていったが、江戸時代に鉱脈が絶えて、今日では遺跡遺物となっている。



丹生の水銀鉱山跡

丹生の水銀は奈良時代に発見された日本最古の水銀であり、射和輕粉の原料に利用された。

(2) 射和商人の街並み

「伊勢の射和は富山さま、四方白壁^{よもしらかべ}八ツ棟造り、前は切石切戸の御門、裏は^{やつむねづくり}大川船が着く」これは、江戸店持ち豪商^{きりいしきりど}富山家の豪勢を歌った童歌である。江戸時代、射和にはこうした豪商が、竹川竹斎^{おおかわぶね}（幕末に豪商竹川家に生まれ、射和文庫を創設するなど地域に貢献した）の言葉を借りると40軒もあったという。

伊勢本街道の宿場町相可と松阪商人発祥の地射和、^{ちゅうま}中万を結ぶ両郡橋付近は、往時の繁栄の名残を今に残す射和商人の古い街並みと櫛田川の清流が調和した独特の風情をかもしだしている。



射和商人の町並み

射和は室町時代より丹生の水銀を使った輕粉製造で莫大な富を得た。かつての射和の繁栄は、櫛田川の水運によるところも大きいと言える。

【出典：蓮ダムパンフレット】

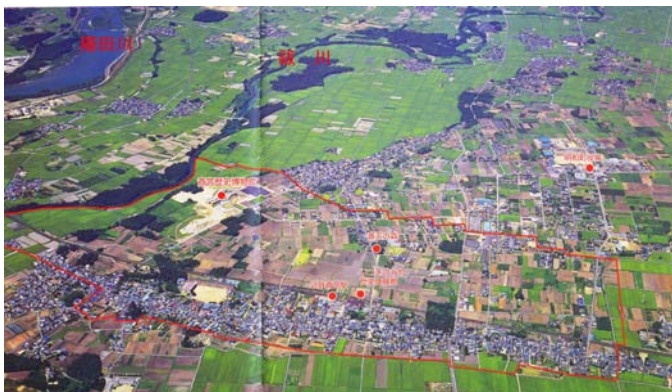
(3) 斎宮跡

菰川中流部右岸に接している国指定の史跡である斎宮跡は、飛鳥時代（670年）から南北朝の争乱（1330年頃）で廃絶するまで続いたとされる^{さいきう}斎王制度の宮殿と役所のあった場所である。斎王とは天皇の即位毎に未婚の皇族女性の中から^{ぼくじょう}卜定（占い）によって選

ばれ、天皇に代わり伊勢神宮に仕え、660年の間に60人をこえる斎王が任命された。菟川の
名前も斎王がこの川でお祓いをしたことに由来するとされている。

斎宮は永い歴史を持ちながら南北朝の争乱で廃絶したため、「幻の宮」とされてきたが、
昭和45年に宅地造成にかかわる発掘調査が行われ、奈良時代の掘立柱建物群、大溝等の
遺構と共に一般の住居跡から出土しない大型飾土馬等の土器が出土し、これらが明和町
の斎宮であることを裏付けることになった。

昭和48年から3ヶ年にわたり宮域範囲確認調査が行われ、その範囲は東西2.0km、南北0.7km、
137haの広大な面積を占めることが明らかになり、我が国の歴史、文化を解明する上で重要な文化遺産として、昭和54年3月27日国の史跡に指定され、
現在も発掘調査が続けられている。



朱彩大型土馬

祭に用いられたと考えられる素焼
きの馬

【出典：斎宮跡パンフレット】

斎宮跡全景

伊勢神宮の天照大神に仕える斎宮の宮殿と役所である斎宮跡地が、菟川に接しており、菟川の名と共に歴史を感じさせる場所である。

【出典：斎宮跡パンフレット】

(4) 斎王祭り

全国に類例のない、貴重な文化遺産である国史跡「斎宮跡」の啓発に努めながら、有効な保存と活用を図り、地域の発展に寄与することを目的として、毎年6月上旬に開催される祭りである。斎王、女官、皇女など総勢約150人による「斎王群行」をはじめ、雅楽、舞楽などの各種イベントが催される。



斎王祭り

メイン行事の斎王群行は、一般の人々から参加者を募り、斎王、女官、童女など総勢約150人によって、平安時代をしのび、盛大に行われる。
【出典：明和町勢要覧】

(5) 神山神社

櫛田可動堰左岸にそびえる標高131mの神山の東側山麓に、伊勢神宮より古い歴史を持つ神山神社がある。神山神社では、20年に1度遷宮がとり行われ、境内に新しい白石が敷き詰められる。この石英の白石は、櫛田川の河原で氏子たちによって拾い集められ、俵に詰められた後、神社まで運ばれる。この伝統は長い歴史の中で脈々と受け継がれている。

しかし、現在では適当な白石が見つからず、古くなった白石を洗って使用している。



神山神社

神山の東麓に位置し、伊勢神宮より古い歴史を持つといわれる神社である。

(6) 神服織機殿神社・神麻続機殿神社

両神社の起源は、天照大神のために荒妙(麻)和妙(絹)を織って神の衣とされたという縁起に基づく神社である。神麻続機織神社では荒妙(麻) 神服織機殿神社では和妙(絹)が奉織され、毎年5月と10月に伊勢神宮で行われる神御衣祭に奉られている。



神麻続機殿神社

櫛田川の右岸沿川に位置し、神御衣祭に奉られる神御衣が奉織されている神社である。

(7) 立梅用水

寛政の改革から文化文政時代へと、農民から年貢をしばりとする重農政策が続いた。当時の丹生村では、谷間の狭い土地は谷水で米を作ったが、平野部は荒地畑ばかりで農民の暮らしはますます疲弊していった。

新田開発こそ農民救う道として西村彦左衛門地土と長谷川庄屋らは、用水築造運動を起こした。櫛田川の水を引き入れる場所として粥見村立梅(今の飯南町)に井堰を造って水を取り、途中の村々へと水を分配し水田を潤すものだった。

文政6年3月に、「立梅井堰」は完成し、立梅井堰—庄鍋村(現飯南町)—波多瀬村—片野村—朝柄村—古江村—丹生村の総延長約32kmの水溝に、さらに約156ha(勢和村旧五か村合計)の



立梅用水取水堰

江戸時代後期に新田開拓のためにつくられた用水であり、現在は発電用水としても利用されている。

新田に結実した。

大正8年には豪雨による櫛田川の大洪水により立梅井堰は崩壊したが、井堰再築工事に着手、コンクリート張石工法で大正10年現在の立梅井堰が完成した。

(8) 櫛田川の渡し

橋のない時代の櫛田川渡河で一番多かったのは、渡し舟である。飯南郡飯南町、多気郡勢和村、多気町、松阪市を流れる櫛田川にはいくつか渡しがあった。特に、大和の初瀬から伊勢神宮に通じる伊勢本街道と、松阪から熊野三山などへの熊野街道が交差する、古代からの交通の要衝地、多気町相可周辺の櫛田川には近代に至るまで多くの渡し場があった。いずれも底の平たいダンベイ舟と呼ばれる川舟を、ねじり鉢巻きの船頭が竹竿で漕いで人馬を渡したのである。

○舟戸の渡し

熊野街道の道筋に当たり、舟戸から櫛田川の渡しを越えて桜峠へ、そこから勢和村を抜けて度会郡玉城町田丸、さらに伊勢神宮、熊野三山につながる。明治に県管理の渡しとして始まり、渡し賃は無料。大正4年に橋が架けられたが、板を渡しただけの簡易橋であったため、橋が出来てからも何年間かは渡しが併存していた。この渡船手法は船頭が棒を使って渡す「棹ごし」である。



舟戸の渡し場跡（桜橋手前の岩場）
熊野街道筋にあたる渡し場跡で、大正時代まで利用されていた。

○津留の渡し

伊勢本街道の道筋に当たり、松阪市茅原と、津留の間を渡し、勢和村へも通じる。昭和4年に、今の津留橋が出来るまで存在した。渡し場の管理は津留の人が行い、津留の人は無料、茅原の人は有料。渡舟手法は川幅に張った鉄線を手でたぐりながら舟を進める「綱ごし」「横渡し」である。渡し場にある川中の石は「はかり岩」といわれ、川の水量を測る目安とされた。昔は岩の上に切石が乗っていたが、伊勢湾台風で流された。



津留の渡し場跡（はかり岩）
伊勢本街道筋にある渡し場跡で、昭和4年まで利用されていた。

○^{えくに}兄国の渡し

松阪市中万町と兄国との間の渡し。昭和32年まで。この渡しは個人が経営しており有料。人の他、自転車も渡した。渡しは「綱ごし」。平常より水位が3 m上ると川止めになった。



兄国の渡し

昭和32年まで、中万と兄国の間を結ぶ渡しとして利用されていた。

【提供：大西春海氏】

○相可の渡し

松阪市射和と、相可の間の渡し。明治18年に前の両郡橋が出来るまでであった。渡船手法は船頭が棒を使って渡す「棹ごし」である。



相可の渡し場跡

両郡橋が出来るまで射和と相可の間を結ぶ渡しとして利用された。

主な渡しの位置図

伊勢本街道をはじめ、様々な街道が交差しており、川を渡るための渡しが所々に設けられていた。

(9) ^{かはだ}香肌まつり

昭和50年から毎年8月に開催されている祭りで、伝統の盆踊りや青空市、清流太鼓^{せいらゆうたいこ}の演技等、飯高町の夏の風物詩として定着しており、年々参加者も増加している。



香肌まつり

飯高町役場前において、毎年8月に開催されており、夏の風物詩として定着している。【出典：飯高町勢要覧】

[櫛田川にまつわる伝統]

(1) お庄ヶ淵 おしょうがふち

場所：飯高町宇藤木 うとうぎ

お庄という名の若妻が、遠く出稼ぎにいった夫を想い放心状態のまま、川の淵で洗濯をしていて足を滑らせ、溺死してしまう。竜神様のおぼし召しによりお庄は、この淵のヌク湯で我が子の病気を治し、浮世の縁を切った。死後も子供を想う母性愛を語り継いでいる。

この話を伝え聞いた多くの病人が、この淵へ足を運び入浴し、病気を全快させたといわれている。



お庄ヶ淵

飯高町宇藤木の櫛田川にある大淵で、炭酸塩泉が今でもわき出しており、お庄ヶ淵の伝説が生まれた。

(2) 礪石

場所：飯高町赤池地先の櫛田川の真ん中

「勢陽五鈴遺響」せいようごれいいきょうに出ている「国分け伝説」である。

大昔、天照大神あまてらすおおみかみと天児屋根命あまのこやねのみことが両国の国境を決めるとき、天照大神が巨石を川中に投げ入れて国境を決めたという有名な伝説である。

この大石は礪石と呼ばれ、今も高さ 3 m 幅 5 m もある巨石が、緑がかった清流の中に神秘的な姿を宿し、国分け伝説を永遠に伝えている。



礪 石

国分伝説にちなむいわれをもつ岩であり、高さ 3 m 幅 5 m もある巨岩が清流にたたずんだ姿を見せている。

(3) 灯明岩

場所：松阪市射和町、中万町と多気町相可、^{あらまき}荒時の境を流れる橿田川の真ん中

射和町の古刹、^{れんしょうじ}蓮生寺の縁起にまつわる、今から五百年ほど前の、由緒正しい伝説である。

その奇怪な現象は天台宗^{しんせい}真盛上人が、^{はんじやぜんじ}般若禅寺（今の蓮生寺）で遷仏の供養会として念仏説法を始めた折に起こった。寺の辺りに暴風雨が起こり、橿田川に注ぐ^{ちくま}乳熊川の淵辺りから^{りゅうとう}竜燈が舞い上がった。その形跡が、橿田川の真ん中にある大岩の所まで続いていたため、この岩にすむ竜神が説法を聞きにきたのだと、里人たちは感激した。それ以来この岩を灯明岩あるいは、竜燈岩と名付け崇拝し、今も高さ 3 m 幅 8 m もある巨岩が神秘的な姿を宿している。



灯明岩

地域の人々の「川の神」信仰の一つとなっている巨岩である。

(4) ほうろく岩

場所：松阪市大石地区、大石不動院近く

大石不動院近くにある空地に「馬頭観世音」と刻まれた石塔がある。その上の山の断崖を仰ぎ見ると、今にも落ちてきそうな感じの細長い石がぶら下がっている。これが「ほうろく岩」である。

明治時代の昔、この石の下をホーロク売りが通ったが、石が落ちてきたら「ホーロクが割られてしまう」と、急に走り出した。そのため、売り物のホーロクをみんな割ってしまった。それで「ほうろく岩」という名がついたといわれる。別名「観音岩」ともいう。



ほうろく岩

松阪市大石付近は、奇岩の宝庫であり、この「ほうろく岩」の他にも「浮岩」「子持岩」「猫岩」等の名前の付いた奇岩が点在している。

2 - 4 市民活動

櫛田川流域の河川に関連した活動としては、^{はらい}被川環境美化推進協議会が「清浄なるみそぎの川として歴史とともに流れてきた被川をみんなで美しくすることに努め、この活動を通じてお互いの連帯感を高め、地域全体の生活環境を美化し住み良い地域を作ること」を目的に、工場排水調査、現況調査、生物調査、清掃活動等の活動を行っている。

2 - 5 自然公園等の指定状況

櫛田川本川中流域は、大半が県立自然公園に指定され、アユ釣り、キャンプ等に多くの人が訪れる。また、沿川には、まとまった集落があり、地域の人々から親しまれており、自治体でも親水性に配慮したレクリエーション施設の整備を進めている。櫛田川上流域は、ほぼ全域が県立自然公園・国定公園に指定されており、美しい渓谷・溪流が存在する。

また、流域内では8ヶ所が鳥獣保護区に指定されている。

表 2 - 3 櫛田川流域自然公園等の指定状況

公 園 名	指定年月日	関係市町村	主な観光資源	公園面積
むろうあかめあおやま 室生赤目青山 国定公園	S 45 . 12 . 28	なばり ひさい みさと 名張市、久居市、美里村、 はくさん みすぎ いいたか 白山町、美杉村、飯高町、 いが おおやまだ あおやま 伊賀町、大山田村、青山町	かあちだに 山岳景観、香落溪、 あかめ あくか 赤目四十八滝、奥香 はだ きたばたけ 肌峡、北 畠神社、 おくやまあだこ 奥山愛宕神社	13,564ha
かはだ 香肌峡県立 自然公園	S 28 . 10 . 1	まつさか いしいなん 松阪市、飯南町、飯高町、 せいわ 勢和村	櫛田川上流渓谷、山 岳景観、和歌山街道	24,764ha

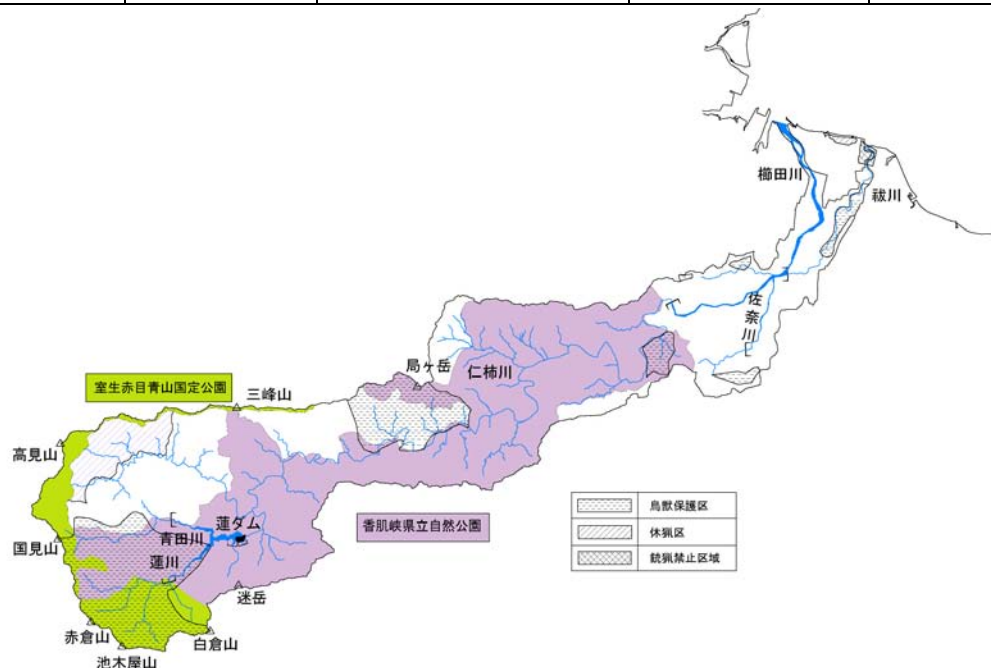


図 2 - 3 流域内国定公園・県立自然公園指定状況